



大幸薬品

2023年12月期 (FY2023) 第2四半期 連結決算報告

2023年8月

大幸薬品株式会社

証券コード：4574

第2四半期 連結決算業績

第2四半期 セグメント別事業概況

今後の事業戦略について



第2四半期 連結決算業績

- 医薬品事業の増収が牽引し、売上高は増収
- 棚卸資産評価損・返品等の影響縮小や、販管費のコスト削減に努めたことから、前年同期比では業績改善

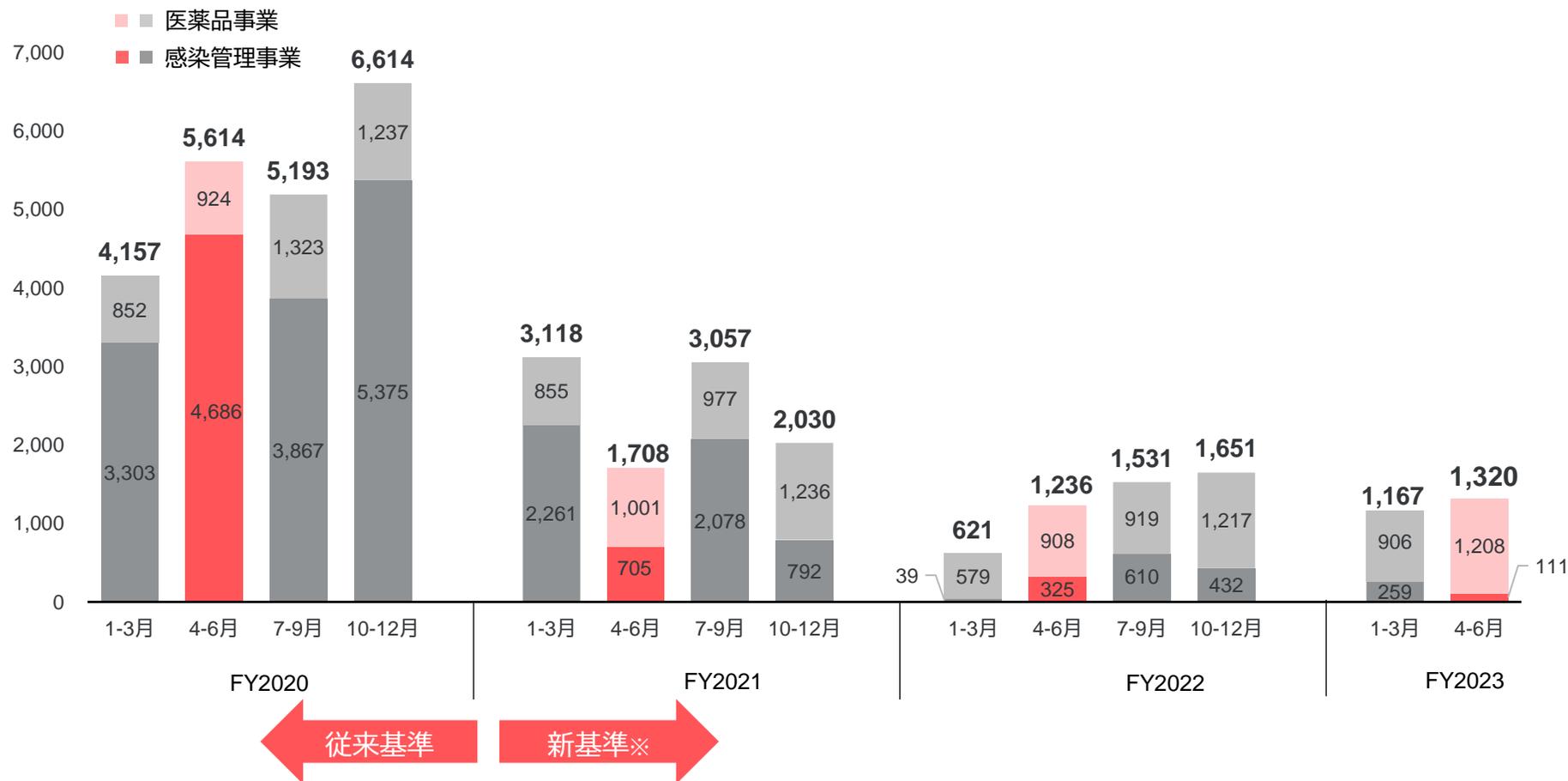
(単位:百万円)

	FY2022		FY2023		増減額	増減率
	第2四半期 累計実績	売上比	第2四半期 累計実績	売上比		
売上高	1,857	-	2,488	-	+631	34.0%
売上総利益	△177	△9.5%	1,050	42.2%	+1,228	-
販売費及び一般管理費	2,240	120.6%	1,447	58.1%	△793	△35.4%
営業利益	△2,417	△130.1%	△396	△15.9%	+2,021	-
経常利益	△2,515	△135.4%	△510	△20.5%	+2,005	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△2,798	△150.6%	△514	△20.7%	+2,283	-

連結売上高推移 (四半期)

- 医薬品事業は堅調な需要と供給体制の強化により増収
- 感染管理事業は措置命令の影響もあり、市場需要は低水準で推移

(単位:百万円)



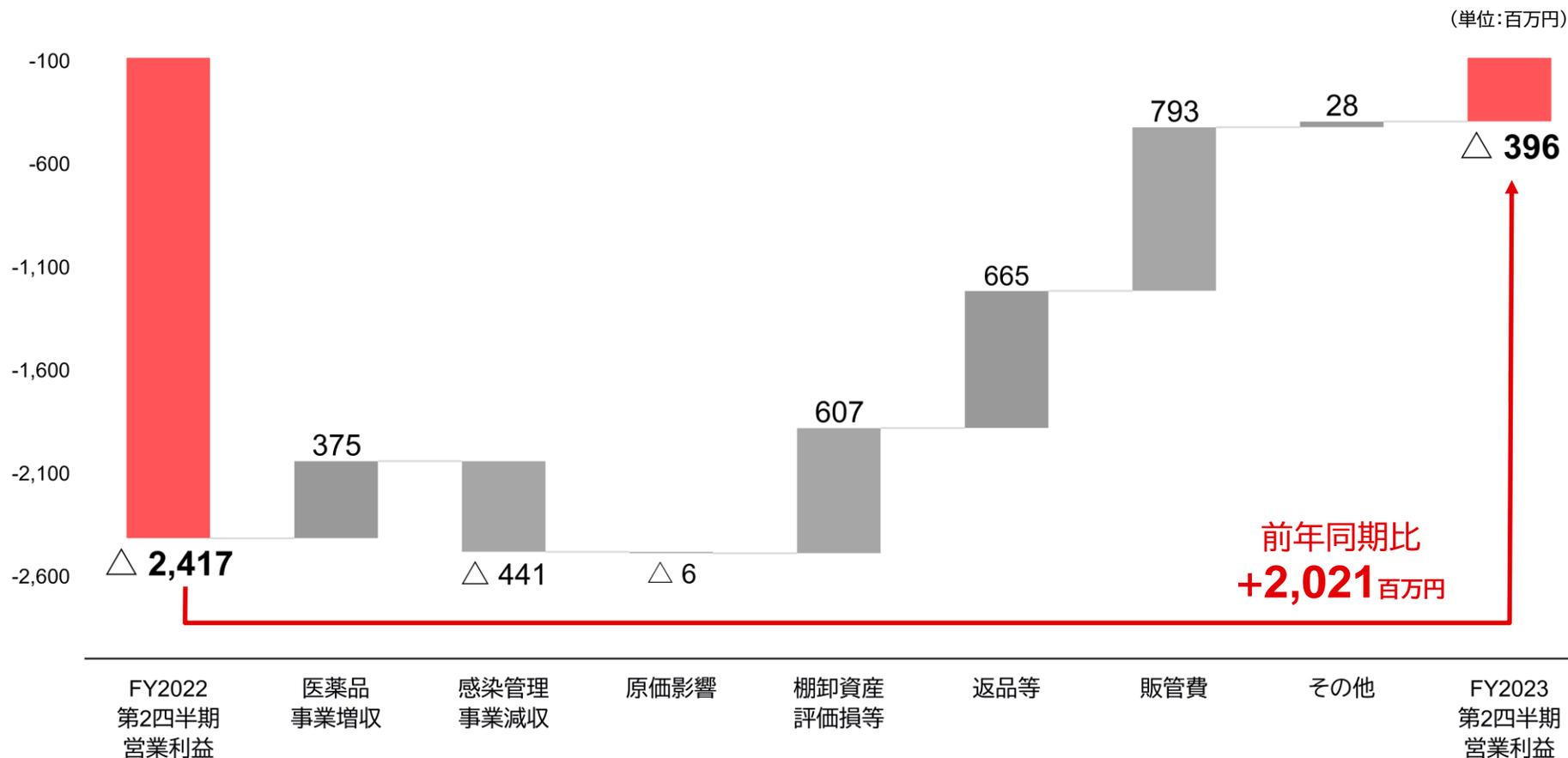
従来基準

新基準※

※「収益認識に関する会計基準」等を適用

営業利益の変動要因

- 医薬品事業の増収影響に加え、感染管理事業の棚卸資産評価損や措置命令に関連する返品等の影響縮小により、前年同期比で大幅に改善
- 販管費は前年同期比で大幅圧縮



販売費及び一般管理費

- 構造改革を継続して推進し、販売費及びその他経費は大きく減少
- 前期に実施した希望退職等により人件費も減少し、収益体質の改善は進捗

(単位:百万円)

	FY2022		FY2023		増減額	増減率
	第2四半期 累計実績	構成比	第2四半期 累計実績	構成比		
販売費及び一般管理費合計	2,240	-	1,447	-	△793	△35.4%
販売費	611	27.3%	270	18.7%	△341	△55.8%
広告宣伝費	219	9.8%	92	6.4%	△126	△57.6%
販売促進費	142	6.3%	71	4.9%	△70	△49.9%
運送費	250	11.2%	106	7.4%	△143	△57.5%
人件費	805	35.9%	580	40.1%	△224	△27.9%
その他経費	823	36.8%	596	41.2%	△227	△27.6%
研究開発費	214	9.6%	114	7.9%	△100	△46.7%
支払手数料	310	13.9%	170	11.8%	△139	△45.0%

経常利益・四半期純利益

- 感染管理事業に係る工場の操業停止が継続しており、操業停止関連費用(145百万円)を営業外費用に計上
- クオリップス(株)がグロース市場に上場し保有株式の一部を売却。特別利益87百万円を計上

(単位:百万円)

	FY2022 第2四半期 累計実績	FY2023 第2四半期 累計実績	前期比	増減要因等
営業利益	△2,417	△396	+2,021	
営業外収益	72	51	△20	主に為替差益の影響
営業外費用	170	165	△4	
経常利益	△2,515	△510	+2,005	
特別利益	-	87	+87	投資有価証券売却益87百万円
特別損失	277	69	△208	減損損失69百万円
税金等調整前四半期純利益	△2,793	△492	+2,300	
法人税、法人税等調整額	4	22	+17	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△2,798	△514	+2,283	

- 安定的かつ持続的な成長と財務基盤の強化を目的としたエクイティファイナンスを実施
(2023年3月1日発行決議)

(単位:百万円)

	FY2022 期末	FY2023 第2四半期末	前期比	増減要因等
流動資産	7,556	8,514	+958	
現金及び預金	3,105	4,782	+1,677	新株予約権の発行等
売上債権	1,798	1,685	△113	
棚卸資産	1,952	1,840	△112	
固定資産	7,489	7,121	△367	
資産合計	15,046	15,636	+590	
流動負債	2,793	2,888	+95	
固定負債	4,208	3,570	△638	主に長期借入金の減少
純資産	8,044	9,177	+1,133	新株予約権の発行等
負債純資産合計	15,046	15,636	+590	
自己資本比率	53.5%	58.7%		

連結キャッシュ・フロー状況

- 投資CFは投資有価証券の売却・償還収入によりプラス
- 財務CFは新株予約権行使による収入が影響しプラス

(単位:百万円)

	FY2022 第2四半期	FY2022 第2四半期	主な要因 (FY23)
営業CF	△631	126	税金等調整前当期純利益 △492 減価償却費 351 減損損失 69 売上債権の減少 133 棚卸資産の減少 116 仕入債務の増加 51 利息の支払額 △4 法人税等の支払額 △3
投資CF	△96	707	投資有価証券の売却収入 287 投資有価証券の償還収入 400
財務CF	△501	827	長期借入金返済による支出 △589 新株予約権行使による収入 1,425
現金・同等物換算差額	87	53	
キャッシュ増減 ※1	△1,141	1,714	
キャッシュ期末残高	4,379	4,511	

※1 営業CF + 投資CF + 財務CF + 現金・同等物換算差額



第2四半期 セグメント別事業概況

セグメント別事業概況

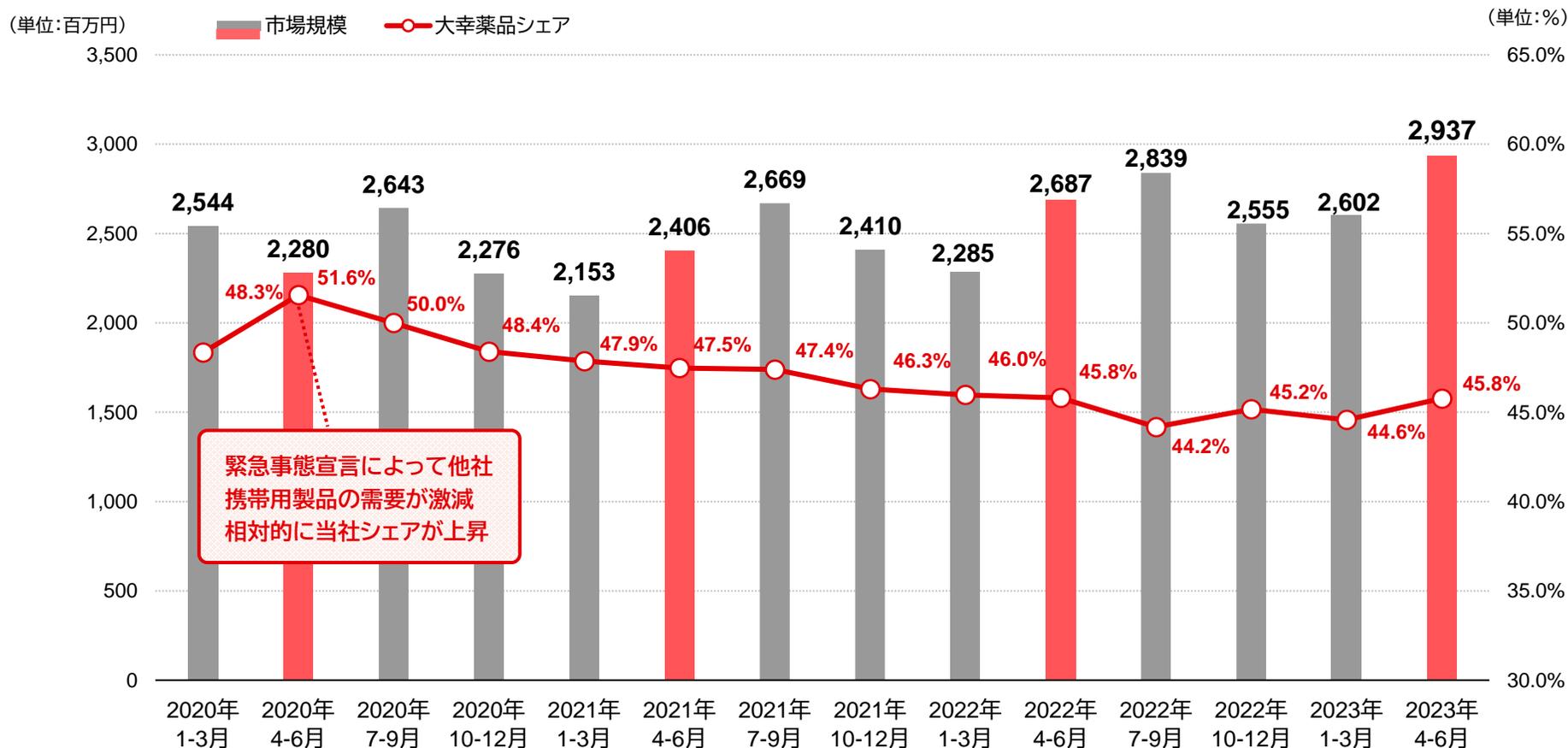
- 医薬品事業 : 主に国内向けの増収により、セグメント利益は大幅増益
- 感染管理事業 : 前年同期に比べ、棚卸資産評価損の減少や費用抑制により、損失幅は改善

(単位:百万円)

		FY2022 第2四半期 累計実績	FY2023 第2四半期 累計実績	増減額	増減率
医薬品事業	売上高	1,488	2,115	+627	42.2%
	セグメント損益	△117	514	+632	-
	利益率	△7.9%	24.3%	-	-
感染管理事業	売上高	365	370	+5	1.4%
	セグメント損益	△1,643	△407	+1,235	-
	利益率	△449.8%	△109.9%	-	-
その他事業	売上高	4	2	△1	△38.8%
	セグメント損益	△11	△11	+0	-
	利益率	△250.6%	△430.7%	-	-

- 国内止瀉薬市場は、堅調に推移しておりコロナ前の水準に回復
- 当社シェアは供給不足により若干下落も、足元は供給体制の強化に合わせ回復傾向

国内止瀉薬市場



※出所: 株式会社インテージSRI+、店頭小売価格ベース

- 国内医薬品事業は堅調な需要と他社製品欠品の影響もあり大幅増収
- 今後更に供給量を強化し、早期に一部製品で実施している出荷制限解除を目指す

製品カテゴリー別売上高

(単位:百万円)

	FY2022	FY2023	増減額	増減率
	第2四半期 累計実績	第2四半期 累計実績		
国内医薬品事業売上高	1,291	1,702	+411	+31.9%
正露丸	588	1,174	+586	+99.7%
セイロガン糖衣A	849	704	△145	△17.1%
正露丸クイックC	38	67	+29	+76.3%
その他 ※1	32	37	+5	+18.0%
返品・値引・協賛等	△217	△281	△64	△29.7%

※1 整腸薬「ラッパ整腸薬BF」、止瀉薬「ピシヤット」等

正露丸



セイロガン糖衣A



正露丸クイックC



ピシヤット下痢止めOD錠



■ 製造スケジュール調整により十分な供給量に至らないものの、前年同期比では増収

地域別売上高

(単位:百万円)

	FY2022	FY2023	増減額	増減率
	第2四半期 累計実績	第2四半期 累計実績		
海外医薬品事業売上高	196	412	+216	+109.7%
中国	233	299	+95	+46.9%
香港	△29	52	+81	—
台湾	—	77	+77	—
その他対象エリア ※1	10	23	+13	+129.6%
返品・値引・協賛等	△17	△39	△22	

※1 米国、カナダ、タイ、マレーシア、モンゴル

正露丸



セイロガン糖衣A



- 措置命令の影響もあり、市場需要は低水準で推移
- 前期に多額の返品や返品見込額の計上があったことから、前年同期比で売上高は横ばい

対象顧客別売上高

(単位:百万円)

	FY2022	FY2023	増減額	増減率
	第2四半期 累計実績	第2四半期 累計実績		
感染管理事業売上高	365	370	+5	1.4%
国内一般用	645	166	△478	△74.1%
国内業務用	368	253	△115	△31.2%
海外	110	45	△65	△59.1%
返品・値引・協賛等	△759	△95	+664	



通期業績予想について

- 第2四半期累計の業績進捗は社内計画を下回っているものの、下期に向けて、医薬品事業は供給量の増加を見込んでいること、感染管理事業も秋冬の需要期における増収を見込んでいることから、現時点で業績予想の修正は予定しておりません。
- 今後業績予想の修正が必要と判断した場合には、速やかに公表いたします。

(単位:百万円)

	FY2022 実績	FY2023 業績予想	増減額	増減率	FY2023 Q2実績	進捗率
売上高	5,040	7,900	+2,859	+56.7%	2,488	31.5%
医薬品	3,624	5,640	+2,015	+55.6%	2,115	37.5%
感染管理	1,408	2,254	+845	+60.1%	370	16.4%
その他	7	6	△1	△21.9%	2	33.3%
営業利益	△3,079	532	+3,611	-	△396	-
経常利益	△3,352	60	+3,412	-	△510	-
当期純利益	△4,895	50	+4,945	-	△514	-



大幸薬品

将来情報に関する注意事項

当資料に記載されている将来情報は、種々の前提に基づくものであり、
将来の計画数値や施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません



大幸薬品

今後の事業戦略について

2023年8月

大幸薬品株式会社

証券コード：4574

1. 経営方針

2. 医薬品事業

3. 感染管理事業

4. 構造改革による変革の推進

医薬品事業

ラッパブランドの再成長

- 生産・品質体制の向上と原価低減
- インバウンド需要の取り込み
- 中華圏での速やかなコロナ前の売上達成

感染管理事業

クレベリンの更なる理解促進と信頼醸成

- 特許・二酸化塩素製品へのリソース集約
- 特許・二酸化塩素の安全性・有用性の理解と信頼醸成
- 二酸化塩素の新たな規格化(JSA規格制定、公正競争規約制定)

コーポレート

構造改革による変革の推進

- 「事業仕分け」「組織のスリム化」「コスト削減」による収益性向上の継続
- サステナビリティ経営への体制整備

- 止瀉薬市場はコロナ前を上回る水準に回復
- 正露丸は需要の回復や他社欠品の影響もあり大幅増加
- セイロガン糖衣Aは昨年の一部原材料変更に起因する生産量低下の影響により店頭販売は回復途上

(2023年1-6月累計比較)

〔市場動向〕	対2022年比	対2019年比
止瀉薬市場	+11.4% 	+7.4% 
正露丸	+67.7% 	+33.3% 
セイロガン糖衣A	▲26.1% 	▲25.3% 

供給不足が
継続



シフト生産体制や京都工場の医薬品ライン立ち上げなど、
下期に向けて供給体制は改善していく見込み

ブランド	正露丸				セイロガン糖衣A			
製品名	正露丸 100粒	正露丸 200粒	正露丸 400粒	正露丸 クイックC 16カプセル	セイロガン 糖衣A36錠	セイロガン 糖衣A84錠	セイロガン 糖衣A 48錠PTP	セイロガン 糖衣A携帯用 24錠
写真								
供給状況	○	-	-	○	○	-	-	-
下期の 出荷見通し	○	○	○	◎ ※下期より リニューアル	○	○	△	△

- 「正露丸クイックC」、「ラッパ整腸薬BF」のパッケージリニューアルにより、デザインの統一化・リブランディングを実施

正露丸クイックC

2023年7月発売済み



〔旧パッケージ〕



ラッパ整腸薬BF

2023年10月発売予定



〔旧パッケージ〕



■ 海外医薬品事業

ー 中華圏にリソースを集約し、海外医薬品事業の成長ドライバーへ

価格見直しによる 収益性向上

- 原材料等の高騰に対し、適正な価格転嫁を推進
- 海外医薬品売上の8割以上を占める香港・中国向けの出荷価格の見直し

※2023年7月出荷分より約20%の値上げ

コア市場での ブランディング強化

- コア市場(福建省、広東省)での深掘り
- ブランド認知向上と配荷率向上

供給体制強化

- 中国、香港、台湾の流通在庫は国内以上に枯渇
- 薬事対応と平行して海外向けの供給強化に取り組む



「クレベリン」をご愛顧いただいているお客様、取引先様、及び株主様をはじめとする関係者の皆様には、昨年の景品表示法に基づく措置命令により多大なご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げますとともに、**措置命令に関する一連の対応が全て完了**いたしましたことをご報告申し上げます。

本日は、改めてお客様に信頼していただける「クレベリン」ブランドを創っていくためにも、「**これまでの経緯**」や「**措置命令後に何を変えたのか**」、「**どのようにお客様にお伝えしていくのか**」等をご説明させていただきたいと思っております。

■ 2022年1月、4月に発出された消費者庁措置命令の概要

1月対象製品

4月対象製品



■ 空間除菌表示に関する主な措置命令内容

試験環境で確認したウイルス除去・除菌等の機能が、全ての実生活空間における機能表示としての合理的な根拠としては認められなかった。



- 2022年5月3日 社告掲載
- 2022年7月14日 クレベリンパッケージ改訂を実施
- 2023年7月31日 課徴金納付命令に従い、納付完了

】 **全ての対応完了**

広告審査方針

- ・景品表示法等に準拠
- ・試験結果と表示内容の照合プロセス強化

広告審査体制

- ・審査担当
- ・お客様相談係

監督
教育

広告審査連絡会(新設)

※審査を監督・教育する組織

監査等委員

社外弁護士

除菌に対する社会通念の変化等、外部環境の変化に常に対応し、「エビデンス」を「適切に表示」した広告表示を遵守する体制へ

景品表示法に基づく、措置命令への対応

- 社告掲載
- 製品パッケージやweb等広告物の表示見直し実施
- 措置命令に伴う課徴金納付済(2023年7月末)

表示物に対する社内体制強化

- 従業員に対する景品表示法の研修実施
- 社内チェック機能(広告審査体制)の強化
- 科学の知見を有する社外弁護士の活用
- 必要に応じて消費者庁へ指導仰ぐ体制

2023年秋・冬に向けたプロモーションを再開

エビデンスベースド × 機能体感コンテンツ

エビデンスベースド

実生活空間での機能を打ち消し表示した上で、エビデンスの表示・訴求

機能体感コンテンツ

製品機能を体感頂く事で、エビデンスを身近に感じていただく

これまで

これから

表示

実生活空間での機能を
想起させるような表示

エビデンスの表示・訴求

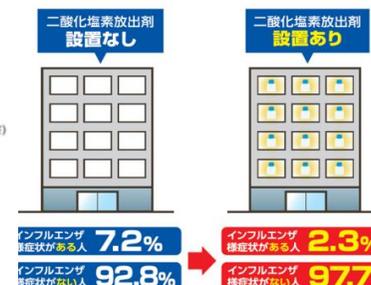
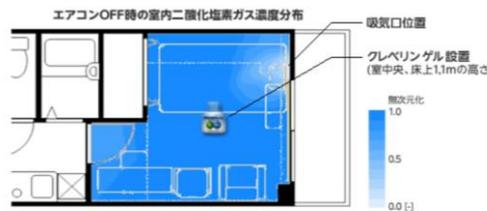
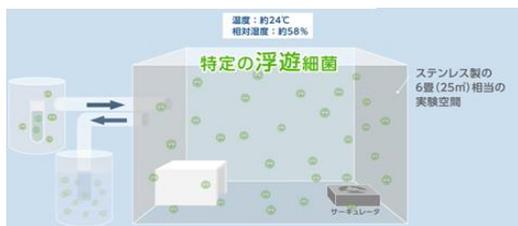
※ウイルス除去・除菌等の試験の表示
※実生活空間での機能を打ち消し表示

無人・実験空間
ウイルス除去
除菌試験

無人・居室
二酸化塩素ガス
拡散試験

実空間
疫学調査

有効性・安全性等
論文発表



GLOBAL JOURNAL OF MEDICAL RESEARCH & DISEASES
Volume 23 Issue 2 December 1-10 Year 2023
Type: Chlorine Dioxide Gas Release Agent Research Journal
Publication: Global Journals
Online ISSN: 2248-4418 & Print ISSN: 0975-9888

Relationship between COVID-19 and use of Chlorine Dioxide Gas-
Releasing Agents in Elementary Schools
By Yoshinori Kato, Takamori Miura, Kazuo Okimura, Ken Hisats, Mitsuyoshi Suzuki,
Eisuke Inoue, Noriaki Yanagisawa, Hiromichi Shoji, Norio Ogata, In Shikata,
Takanishi Shikata & Yoshiaki Shimizu

Abstract: Chlorine dioxide has an inactivating effect on various types of viruses in vitro, including severe acute respiratory syndrome coronavirus 2. Therefore, chlorine dioxide gas can be used as a non-antibiotic measure against coronavirus disease 19 (COVID-19). However, no studies have been conducted to investigate the relationship between the incidence of COVID-19 and chlorine dioxide. We retrospectively studied the occurrence of COVID-19 in 144 public elementary schools under the jurisdiction of boards of education located in urban areas in Japan, provided with chlorine dioxide gas-releasing agents or not, from January to March 2022. The odds of developing COVID-19 were lower (odds ratio: 0.84, 95% confidence interval: 0.805-0.978) in schools provided with chlorine dioxide gas-releasing agents than in schools without them. This suggested a relationship between the use of chlorine dioxide-releasing agents and the incidence of COVID-19. Further studies are needed to prove a causal relationship between them.

Keywords: chlorine dioxide, COVID-19, infection prevention, elementary school, viral infectivity, SLAM-F Classification: DDC Code: 6

当社
エビデ
ンス
(例)

機能試験

疫学試験

成分試験

当社保有特許 34件 、 論文発表数 47件 ※感染管理製品、成分関連

※対象期間:2011年~2023年取得分

	試験空間での検証	嗅覚・視覚での体感
ウイルス	実施済	難しい
菌	実施済	難しい
ニオイ	実施済	可能
カビ	実施済	可能

製品機能をわかりやすく体感していただくために、 嗅覚・視覚にフォーカスしたコンテンツを提供

嗅覚：クレベリンスプレーによる納豆消臭体感



視覚：クレベリン置き型によるカビ体感



※マタニティ&ベビーフェスタ2023 in 横浜 大幸薬品掲出物より

- プロモーション再開に伴い、下期に広告販促予算を投下

〔広告・販促費比較〕…国内感染管理事業

2022年 下期実績

0.9億円

2023年 下期予算

2.7億円 + α

約3倍の費用を
投下予定

※状況に応じて追加投資も検討

※「クレベ&アンド」ブランドは除く

「エビデンス」を分かりやすく伝える施策の再開、新商品の上市

TVCM



※CM画像はイメージであり、実際に放映される内容とは異なる場合があります。

新商品

cleverin クレベリン

数量限定 約2ヶ月

3 お得な個入

TAIKO

二酸化塩素分子のチカラで
ウイルス、菌、ニオイを除去*

◎実生活空間(有人、居室等)での機能は確認していません。
※ウイルス・菌各1種、悪臭成分5種 除去機能試験結果(詳細は裏面参照)
[衛生関連特許] [組成物関連特許]



置き型限定品

スプレー250mL

実験動画

消臭実験

イメージ映像

- アンモニア 消臭剤(生活臭、トイレのニオイ)
- トリメチルアミン 消臭剤(ゴミ、排水のニオイ)
- メチルメルカプタン 消臭剤(排水のニオイ)

◎実際の社内施設、生ごみ、排泄物、ペット等に対しての消臭機能は確認していません。

その他施策

プレゼント キャンペーン

おむつゴミにシュッシュ!

#クレベリン消臭体験
プレゼントキャンペーン

CLEVERIN & 55 ALL STAR

クレベリンスプレー
消臭剤
30日に
プレゼント!

Wチャンス
プレゼント!

フォロー&コメントで応募完了!

イベント出展



①クレベリン 置き型 3個入

クレベリン
cleverin 置き型

数量限定

約**2ヶ月**

3 お得な
個入

TAIKO

二酸化塩素分子のチカラで
ウイルス 菌 ニオイ を除去*

◎実生活空間(有人、居室等)での機能は確認しておりません。
※ウイルス・菌各1種、悪臭成分5種 除去機能試験結果(詳細は裏面参照)

衛生関連特許 **組成物関連特許**



POINT

当社エビデンスを表示・訴求

※ウイルス除去・除菌等の試験の表示

※実生活空間での機能を打ち消し表示

②クレベリン スプレー 250mL

現行品 300mL

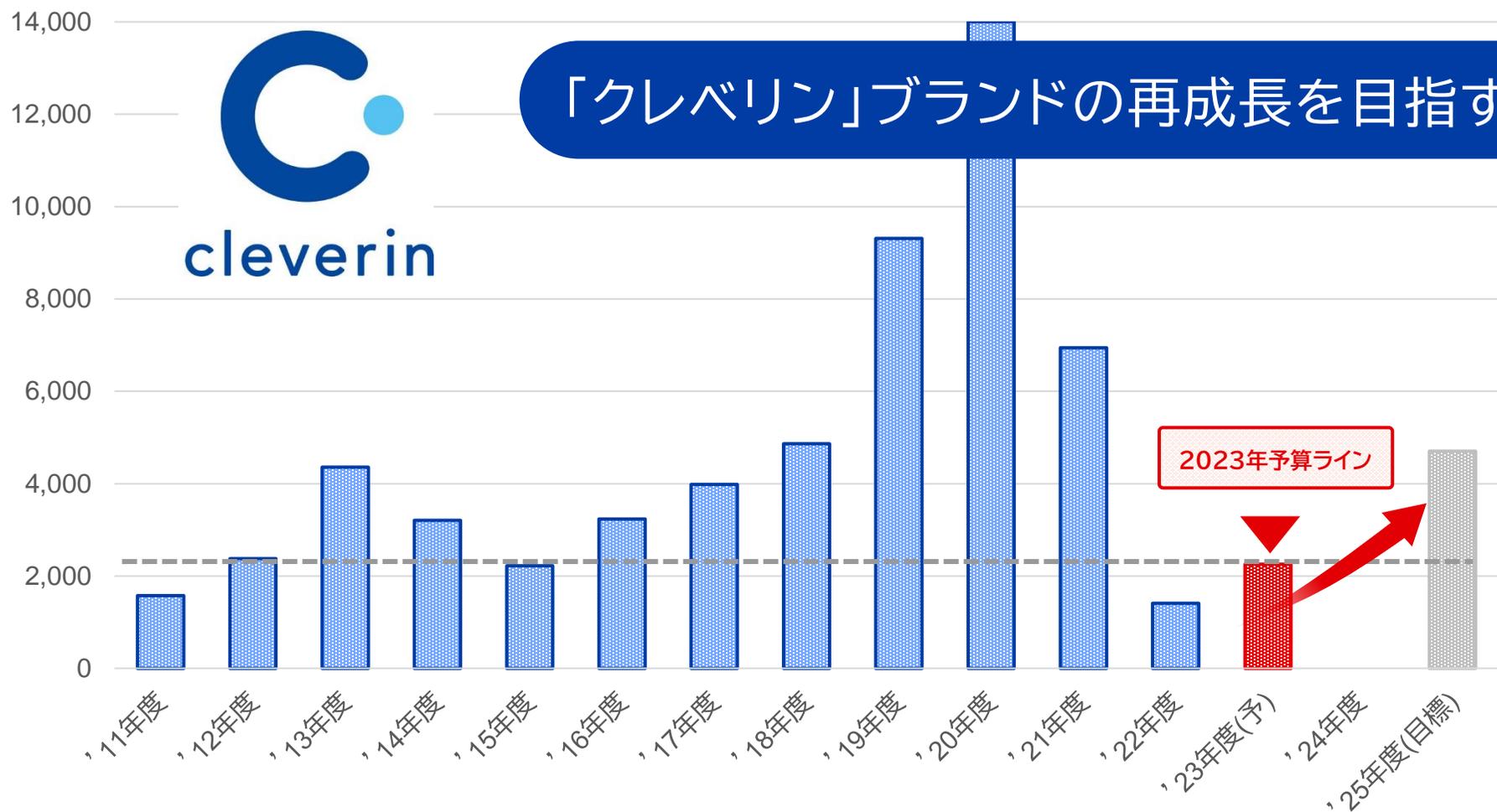


250mL



お求めやすい価格
店頭の新商品に展開しやすい高さ

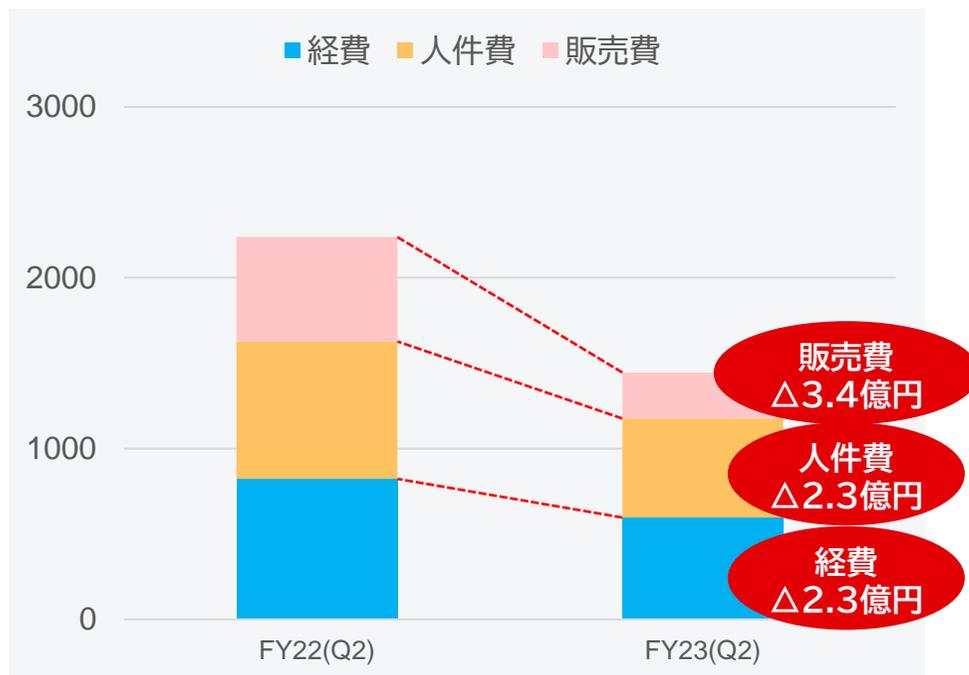
POINT



※2020年度は決算期変更のため、9ヵ月間
 ※2021年より「収益認識に関する会計基準」等を適用

収益体質の改善

- 販管費はFY22比で△約8億円
- 固定費削減を目的とした茨木工場の撤退を決定
- 営業キャッシュ・フローの安定的創出



財務基盤の安定化

- バランスシートの最適化を図り、成長投資と安定した財務基盤を両立

- 1 連結グループのキャッシュ最適化
- 2 有利子負債の継続的削減
- 3 保有資産の売却による財務基盤強化
- 4 各種投資案件の基準厳格化

医薬品事業

正露丸ブランドで
胃腸環境を整える

感染管理事業

濃度コントロールした二酸化塩素による
持続可能な社会環境を提案する

木酢事業

土壌改善、化学肥料低減

セルフレイテーション
対応

熱中症
運動時脱水
対応



大幸薬品

パンデミック
集団感染
学級閉鎖
対策

院内感染
薬剤耐性菌
対策

グローバルな課題への取り組みを通じ、
事業成長と経営理念の実現を目指していきます



世界のお客様に
健康という
大きな幸せを
提供します。

医薬品事業



においがいい糖衣錠

セイロガン糖衣A

第2類医薬品

昔ながらの常備薬

正露丸

第2類医薬品



感染管理事業





大幸薬品

将来情報に関する注意事項

当資料に記載されている将来情報は、種々の前提に基づくものであり、
将来の計画数値や施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません